

# 文京人



文京区立第三中学校

## 文京人インタビュー

ふみのみやこ  
文の京地域文化インタープリターの会／代表理事  
やなぎさわ すすむ

### 柳澤 愈さんに聴く

# 文京の歴史・文化の知見を

# 語り伝えるボランティア



—— インタープリターとは何ですか

地域文化資源を調査研究して、区内外の人に語り継ぐ通訳・解説者のことです。

文京区には歴史のある神社、仏閣、大名庭園、所縁の文豪たち等、多くの文化資源があります。

2006年、文京区は地域の人にそれら地域の文化財の案内役になってもらう

独自の取り組みを始めました。それが「文の京地域文化インタープリター養成講座」です。

区民より参加者を募り、講座の受講を終えた人に認定証を発行するというものです。初めは日本女子大学に委託して開設されました。

—— 柳澤さんも「文の京地域文化インタープリター養成講座」を受講されたのですか

はい。私は歴史書を読むのが趣味なものですから、文学部史学科の永村眞先生を中心に指導を受けました。日本史、建築史、彫刻史、民俗学等、江戸時代以来の文化遺産を研修する講義でした。



春日局企画展でケーブルTVの取材を受ける柳澤さん



春日局企画展（2020年12月）

それまでも好きな歴史を学んできましたが、勉強して頭に入れるだけでした。このままではせっかくの知識もお墓まで持っていくことになります。

「こんな勿体ないことはないから、アウトプットしなければ。社会参加をして人々に伝えたい」と考えていた時に、この講座の募集を目にし、受講を決めたのです。そして認定証をいただき、インタージャーとしての活動を始めました。

——どのような経緯で「文の京地域文化 インタージャーの会」を設立されましたか

きっかけは文京区からインタージャーに、企画展の運営依頼があったことでした。それは、企画・パネル作成・展示・解説等の一連を担うものでした。その委託を受けるために、会を作る必要がありました。

そこで、2011年12月17日、養成講座修了者28名で立ち上げました。私はその時から代表理事を務めています。現在

の会員は36名です。

——どんな企画展をされたのですか

森鷗外展、徳川慶喜展、石川啄木展、夏目漱石展、春日の局と細川ガラシャ展です。シビックセンター一階のアートサロンやギャラリーシビックで開催しました。

——反響はいかがでしたか

多くの人が訪れ、大盛況でした。

鷗外展の時は、ベルリンの鷗外記念館から副館長のベアデー・ボンデさんが見に来られ、「すばらしい」と展示パネルを持ち帰られました。啄木展の時は、「このパネルはなかなか良い」と地元盛岡の青年館に展示されました。

展示した40枚のパネルは、インタージャーの会員がまとめた内容をその分野の専門家に監修を依頼して作成しました。

区民の目線で作ったものを区民が見に来る形なので、展示した我々との間に対話が生まれ、ディスカッションの場にも



研究発表会でプレゼンテーションする柳澤さん

なりました。通訳・解説者としては、一般の人に対して自分の経験と照らし合わせながら自分の言葉で語ることに意義があります。一次資料（直接的原資料）を探して調べる、キーパーソンを見つけて聞き取る等、日々研鑽を続けています。

——企画展以外の活動はありますか  
文京アカデミー主催の講演会や公開講

座の運営などがあります。歴史に関する題材の時は、講師の手配・受付・司会・会場係・接待係等を担当します。

また、古文書解読会もやっています。月2回、神田上水水番人関係資料、根津御宮記等の江戸時代後半の文書を、文京区教育委員会文化財調査員町田先生のご指導で読んでいます。樋口一葉日記の音読会、会員による勉強会や発表会、街歩きもしています。

——「インタープリター」が文京区で地域活動を始められたきっかけは何か

いえ、インタープリターの活動以前にも別の活動をしていました。

私は麻布の生まれですが、1995年に文京区に生まれました。女房の実家がこちらにあって、親の介護の為に来たんです。

女房に勧められ3つの活動に入会したのが始まりです。文京区民大学、文京区郷土史研究会、塩野七生著『ローマ人の物語』の愛読者クラブ。後者の2つは長く続けて会長、副会長等を務めました。

その他、湯島聖堂で論語を学び、早稲田大学、文京アカデミア講座を受講する等して歴史の勉強を続けて来ました。

今85歳で、人生を三期に分けて考えますと23歳までが学生期、24歳から65歳までが転勤族、定年後は好きな歴史の知識を生かして社会参加しました。それが結果として地域貢献になったんです。



古文書解読会の様子



## Profile

柳澤 愈さん | 1938年東京生まれ。

大学卒業後、大手化学メーカー勤務、2003年退職。

退職後、文京区郷土史研究会（会員約60名）、文遊会（映画と落語鑑賞の高齢者親睦会、会員約50名）、塩野七生著「ローマ人の物語」愛読者クラブ（会員約15名）、を主宰。

上記3団体は2021～22年解散。

現在は文京区教育員会文化財調査員、文の京地域文化インタープリターの会（会員36名）代表理事、文京ふるさと歴史館友の会（会員250名）副会長を務めている。趣味は歴史書を読むこと。



柳澤 愈さん(中央)と「文京人」編集部

——苦労されるのはどんな時ですか

企画展で会員が調べたものをまとめる時や、副題作りにいろいろな意見が出るので、それを調整してより良い物に仕上げようとする時です。

——会の運営で心掛けていることは何ですか

通訳・解説者として、それぞれが主体的に活動することを本分としています。目標を共有しつつ、得意分野を選んで達

成感を味わい、楽しみながら継続してほしいと願っています。

——今後やりたい企画はありますか

文京区と関わりのある文学者樋口一葉についての企画展をやりたいです。一葉の両親の出身地、山梨へも会員が足を運びました。

——これから何かを始めたい方へメッセージをお願いします

文京区にこんな勉強会があることを知っていただきたいです。養成講座は跡見学園女子大学に引き継がれ、1年おきに募集があります。土曜の午後、約15回の講座です。7割以上の出席とレポートの評価でインタープリターに認定されます。

年配の方はもちろん、若い方も、ぜひ地域の文化資源について理解を深め、その価値を後世に伝えてほしいと思います。たくさんの方々と一緒に活動できることを楽しみにしています。

小石川で親子3代続く  
アットホームな老舗写真館

## スタジオミナヨ 西倉美樹さんに聴く

スマホでは撮れない  
写真館ならではの魅力とは？



小石川の白山通り沿いに建つスタジオミナヨは、創業73年目を迎えた街の小さな写真館。ママさんカメラマンの西倉美樹さんが、3代目店主を務めています。

写真館の長女として生まれ育った西倉さんですが、跡を継ぐつもりはなかったといえます。短大で服飾を学び、卒業後はアパレル販売や飲食店のウエイトレスなど仕事を転々としながら、自分にはできない仕事を模索。その結果、接客と写真こそが天職と気づき、29歳で人生を仕切り直します。代官山の写真有賀で2

年半修行したあと、スタジオミナヨで両親の手伝いをしながら、自分にしか撮れない写真を目指すことにしたのです。

「今はスマホで誰もが気軽に写真を撮れる時代ですが、写真館でないと撮れない写真があると思います。笑顔でなくても良くて、その方らしい決定的なお顔を写真に残すことに、私の存在意義があると思っています」と語る西倉さん。

笑顔を引き出すコツを尋ねると、意外な答えが。お客様に「笑ってください」とは絶対に言わないということです。スタ

ジオでカメラを前にしたお客様は緊張されていて、いきなり「笑ってください」と言っても不自然な写真しか撮れません。緊張をほぐすには、自然に笑わせるのが一番。お客様とのコミュニケーションの中で相手の好きな物事の話を見つけて会話をし、時にはわざと失敗して見せたりして、場をなごませながら自然に笑顔を引き出していきます。

最高の笑顔を撮るためには、苦勞もあります。七五三の撮影では、3歳前のイヤイヤ期のお子さんが、撮影できるようになるまで4回も来店されたことも。初回は顔合わせで終わり、2回目によくやく店内に入店していただき、3回目に着物の試着をしてもらい、4回目で撮影に成功。その時期にしか撮れない、あどけない姿を記念写真に残して家族の皆さんに喜んでもらえるよう、撮影できるまで粘ります。

お客様には、先代のお父様の頃から家族で利用されている人も多いそう。先代が七五三や成人式の写真を撮ったお客様



どれも自然に引き出された、いきいきとした表情の西倉さんの作品

のお子さんやお孫さんを撮影したり、西倉さんが跡を継いでからも毎年、家族写真の撮影に来店されるお客様もいます。「家族の幸せの思い出となる写真を撮り続けていきたい」と笑顔で話す西倉さんは、伝統を守る一方で新しいことにも意欲的に挑戦しています。例えば、子ども向けワークショップを開催したり、ツクツク!!!を通じたEC（電子商取引）やWebマーケティングを店舗運営に取り入れ、そのノウハウをオンライン講座で伝えたり。隣で美容室を営む夫やエステティシヤンの妹など家族の応援も得ながら、地域の人々や同業者とも送客しあ（せうかくしあ）いっこして深くつながり、令和の時代に合った経営を取り入れて街の写真館を創り上げていく。そんな明るく前向きな西

倉さんの人柄が、スタジオミナヨの一番の魅力かもしれません。作品ファイルにはシニアの写真もありました。それぞれの人柄や歩んできた人生が伝わるような素敵な写真ばかりでした。大人の記念写真もいいですね。



西倉さん(前列中央)と「文京人編集部」ミナヨポーズで

## スタジオミナヨ

〒112-0002  
文京区小石川 1-21-12  
03-3811-0374



# しも文京人



ご協力いただける  
ボランティアさんを  
募集中です!



設置に向け活動してきた  
リアン文京 / 野村美奈さん

この度、東京都文京区水道に  
PLACE SUIDO (プレ  
イス水道) がオープンしました。  
大人も子ども誰もがほっとし  
たり、話の合う人に出会えたり、  
気軽に参加できるイベントや役  
立つ講習会が催される場。「そん  
な所があったらいいな」と思っ  
たことはありませんか。

この拠点は、そんな『地域を明  
るく和やかにする』みんなの憩  
の場です。

——— どのような経緯で始めたので  
すか。

**野村** 私は30年前から福祉施設  
に勤めておりまして、日々、障

小日向神社 祭禮 (昭和 29 年)



小日向神社 祭禮 (平成 21 年)



がいのある方やご高齢の方、小さなお子  
さまやご家族の方等と関わっています。  
そんな毎日の中で、人と人、地域のつな  
がりの大切さを身近に感じてきました。  
地元の皆さんは本当に温かく、何か  
につけて私たちを手助けし、支えて下  
さいました。その度に本当に感激しま  
して。「いつか恩返しをしたい」という  
気持ちが膨らんでいきました。  
そして、その中で温めてきた地域の  
居場所づくりの案を、昨年ようやく実  
現できる状況が整いました。二カ所の  
物件を借り、地元の方が必要とされる  
場所についてヒアリングする会を催し

とても良い取り組みだと感じて  
います。  
特に、これまでなかなか交流  
が持てなかったマンションに住  
む方々でも、気軽に立ち寄れる  
場所になるのでは、と期待して  
います。私たちもぜひ協力して  
いきたいという気持ちでいます。  
**野村** この場所ですら、またいろん  
な

ました。そのときに、地元の小日水町会  
にも協力を願って、湯本さんに声をかけ  
たんですね。  
**湯本** 私の店のある通りは、以前はとて  
も賑やかな商店街でした。スーパーの進  
出等により、個人商店が減ってしまった  
町会としては、地元を昔のように活気が  
あり人が交わる町にしたいと願っていま  
す。  
「若い人に根付いてほしいが、お年寄り  
や障がい者の方も安心して住める所にし  
たい」と町会青年部内でも話が出ていた  
ところに、野村さんからこのお話を聞き  
ました。これは住民同士の交流が深まる、



# あなたもわた

皆さん一緒に  
地域を盛り上げて  
行きましょう!



小日水町会青年部長 /  
中華料理店「新雅」店長 湯本浩司さん

野村 ヒアリングの際に希望が多かった駄菓子屋、ワークショップ、おしゃべり所、地産品の販売

—— 今後どのような計画がありますか。

ことが生まれてくると思うんです。私たちはそういった新しい卵を孵化させ、きちんと育てていきたいと思っています。その生まれたヒヨコは、これからのいろんな形に変わっていくと思うんですよ。  
そのいろんな価値をみんなで、この場所で作っていききたいんです。

湯本 商店街にも子どもたちがお小遣いを握りしめて買い物に行くような駄菓子屋は少なくなりました。対面販売を通して、子どもたちに人と関わる経験をさせてあげたいですね。  
子ども食堂では、おいしい食事を提供したいので、取引先等にも声をかけて、材料調達などに協力していきたいと考えています。

## PLACE SUIDO にて駄菓子屋イベント



会、喫茶、子ども食堂などを計画しています。ホームページに活動を載せていきますのでぜひご覧ください。  
環境教育の一環で養蜂も

### PLACE SUIDO-1



PLACE SUIDO-1  
〒 112-0005 東京都文京区水道 2 丁目 5-11

### PLACE SUIDO-2



PLACE SUIDO-2  
〒 112-0005 東京都文京区水道 2 丁目 10-18

ホームページ



取材者：村田正江

—— 地元の皆さんに一言お願いします  
野村 これからも、皆さまに役立つ企画を考えて運営していきます。ぜひお気軽にお立ち寄りください。



## 東南アジアの ひとつの国

# ミャンマーの話

@ PLACE SUIDO-1

ミャンマーってどんな国？お茶の葉っぱ  
ミ サラダが食べられる??興味津々で参  
加したワークショップ。

開催時間より少し早く会場に着くと、異国情  
緒溢れる音楽が流れ、講師のチョゼヤさんが  
スライドを準備中。聞くと、「お正月の歌です  
よ」と優しい笑顔が返ってきました。チョゼ  
ヤさんはミャンマーの大学を卒業後 2010 年  
に来日。福祉施設で障がい者のお世話をす  
る仕事をしているのだとか。定員 10 余名の  
参加者が続々と集まり、いよいよワークショッ  
プの始まりです。

スライドを使って、まずは地図でミャンマーの  
場所を再確認。続いて、金ピカのお寺シュエ  
ダゴン パコダや8つの民族衣装の写真が説  
明と共に次々と映し出されます。写真が変わ  
るたびに参加者から「へー」「綺麗!」「すご  
い!」の感嘆の声が。特に印象的だったのは、  
ミャンマーのお正月、ダジャン(水かけ祭り)  
のお話。ミャンマーのお正月は4月中旬頃で、  
幸せに過ごせるよう浄化の象徴としてお互い  
水を掛けあうのだそう。音楽パフォーマンス  
や伝統的なダンスもあり、家族と楽しそうに  
過ごす動画に参加者も幸せな笑顔に。  
また名前が、生まれた曜日と動物で決まる話  
にびっくり。ミャンマーでは誕生日を非常に  
大切にし、曜日占いが生活に深く根付いてい  
る様です。



ダ  
ジ  
ヤ  
ン  
(水  
か  
け  
祭  
り)  
の  
風  
景



この材料を混ぜると  
できるよ。



お  
茶  
の  
葉  
っ  
ぱ  
サ  
ラ  
ダ

ミンガラ ナンネーキューパー  
『မုဂ္ဂလာနံနက်ခင်းပါ (おはよう)』など簡単な  
挨拶を皆で声を揃えクライマックスに達した  
ころ、お待ちかねのお茶の葉っぱサラダをチョ  
ゼヤさんが振舞ってくれました。クセのない  
食べやすい味で、身体にも良いけど、ビール  
にも合う印象。ミャンマーでは、これをお酒  
のアテにしたり、お茶のお供にするのだとか。  
笑い声が飛び交う和やかな中お開きに。



美味しい〜

お替わり  
ください!

出  
来  
立  
て  
の  
お  
茶  
の  
葉  
っ  
ぱ  
サ  
ラ  
ダ  
を  
み  
ん  
な  
で  
試  
食

穏やかな笑顔で一生懸命母国の紹介をする  
チョゼヤさんの姿にミャンマーの人々を重ね、  
この『地域のたまり場』がこうした草の根外  
交が育つ、はじめの一步になる機会になれば  
と感じたひと時でした。

■取材者：大塚 七生

# LUANA ケアする人も受ける人も ほっこり

知的障がいのある方の就労体験を通じた街の活性化イベント「番町 SJE マルシェ 2023」に行ってきました。色々なブースが出店する中、私たちがお話を聞かせて頂いたのは、LUANA (ルアナ) です。

LUANA は、「タッチケア」の自主活動グループです。「タッチケア」とは、相手の手足や背中を柔らかく包み込むように決められた動きで、優しい刺激を与える施術のことで、スキンシップをとることで、不安な感情を取り除いたり、痛みを和らげる効果があるそうです。

LUANA のメンバーは都内の放課後等デイサービスで出会いました。その活動プログラムの中でタッチケアを学んだそうです。「やってもらう方が好きだけど、やってあげて褒められるととても嬉しい」と笑顔で語るメンバーたちは、PLACE SUIDO (プレイス水道) で練習した後、昨年からイベントでの出店活動



タッチケア施術を受けている様子

きもちいい〜

を始めました。ハワイ語で〈楽しむ、満足する、くつろぐ〉という意味から LUANA と名付け、お揃いの T シャツも手作りしました。今回が3回目のイベントへの参加になります。



テント裏で休憩中

この日は「癒されて、涙が出ました」というお客さんもいたそうです。ケアする側も受ける側も、春の日差しの下、リラックスして素敵な時間を共に過ごしました。今後は文京区の地元の方を対象にして、地域の居場所、PLACE SUIDO での定期開催を目標としているとのこと。ぜひ体験してみたいかがですか。

取材者：一針 源一郎



イベントの後、LUANAメンバーで記念撮影



日差しが注ぐ校庭に面したホール

■表紙の写真

文京区立中学校として最大の校庭をもつ第三中学校の敷地を、かつて所有していたのは、小石川三井家でした。NHKの朝ドラ

「あさが来た」には今井家として登場します。その三井邸から受け継いだ門柱は東

京大空襲でも焼け残り、今では緑に囲まれ、登校する約150名の生徒たちを優しく迎えています。学校のすぐ近くには、樋口一葉が学んだ私塾「萩の舎」の史跡があります。

昭和26年に落成した校舎は、増改築や耐震補強を重ねつつも、当時の姿をしっかりと残しています。

■写真提供…(表紙)文京区立第三中学校(本文)文の京地域文化インタープリターの会/スタジオオミナヨ

■誌名「文京人」に込めた想い

「文京人」と聞いてどのような人を皆さんは思い浮かべますか。文京区在住の方、仕事で通勤をしている方、文京区で活躍されている方…いろんな人が当てはまるのではないのでしょうか。

私も編集部はそういった文京区に関わり「文京区を愛する人」さらにはこれから「文京区を愛してくれる」方々に向けた情報誌で文京区の人と地域をつなげたい、そのような思いを込めて【文京人】という誌名を付けました。

—— 編集後記 ——

文京区に住むミドルシニアによるミドルシニアのための情報誌第四号をお届けいたします。

文京区ゆかりの人物インタビューでは、歴史の趣味を生かして、文京区の文化を学び、それを人に伝える社会参加で地域に貢献している方を紹介。魅力的な人物のいるお店紹介では、親子三代続く写真館を継ぎ、笑顔を魔法のように引き出す女性店主を紹介。素敵な写真は、まさに人生の1ページ。

今号から4ページ増やし「あなたもわたしも文京人」コーナーを設けました。

新しくできたPLACE SUIDO(プレイス水道)について紹介していきます。是非いらしてみてください。今後も地域情報誌として、よりよく面白く発展していけるように努力してまいりますので、ご意見等がございましたら編集部までお電話またはメールにてお寄せください。

文京区の人と地域をつなぐ情報誌

文京人(ぶんきょうじん) 第四号

題字：上村正子

企画編集『文京人』編集部

発行：社会福祉法人武蔵野会リアン文京

発行日：2023年6月30日

お問い合わせ先：

社会福祉法人武蔵野会

文京福祉センター江戸川橋

電話：03-5940-2901

edogawabashi@team-lien.com

無断転載禁止



Café Tweedia

東京都文京区音羽 1-2-18 問い合わせ先：03-5940-2822